

ドイツ・クリスマスマーケット暴走事件（588号）

2025年 1月 石館

2024年12月20日ドイツのクリスマスマーケットに車が突っ込み5人死亡、200人以上がけがをした。事件が起きたのはドイツの東部の都市マグデブルグ、人口およそ24万人で、首都ベルリンから車で1時間半ほどの場所にある。



ドイツは12月になると多くの都市でクリスマスマーケットが開かれる。

ドイツに住んでいる私の娘はこのクリスマスマーケットは稼ぎ時で各地のマーケットのショーに出演している。この日はベルリンのショーに出ると聞いていた

が、事故の報道がなされると、ベルリンの近くであることから一瞬ドキッとした。

2016年12月19日ベルリンの繁華街でのクリスマスマーケットに大型トラックが突入し12人が死亡した事故があったが、その時も娘はベルリンでのショーに出ていた。



ショーに出ている私の娘

昨年12月のマグデブルグでの暴走事件は、地元の警察によると、意図的に車を暴走させた単独による犯行だとの見方を示し、サウジアラビア出身の50歳の容疑者を現場で拘束したことを明らかにした。

地元当局によると、容疑者は医師で、2006年からドイツに暮ら

している人物だということだが詳しい背景は明らかになっていない。容疑者が SNS に反イスラム的な投稿をしていたほか、サウジアラビアの女性が国外に亡命する手助けをし、ドイツ難民制度をホームページで紹介する活動を長年していたと伝えられる。



EPA
| 事件の翌朝、現場にはたくさんの花やろうそくが手向けられた(21日、ドイツ・マグデブルク)

事故の翌朝多くの花やろうそくが手向けられた。

またショルツ首相も翌朝現場を訪れた。この2月にドイツは総選挙が行われるが今回の暴走殺傷事件で極右政党は反移民

の主張を強めると思われ、政策論議の行方は混沌としてくる。

ドイツのシュタインマイヤー大統領は12月27日、議会の解散と総選挙の実施を正式に公表した。ドイツでは不信任になった首相の提案に基づき大統領が議会を解散する。ショルツ首相は12月16日に議会の信任投票で不信任となり、シュタインマイヤー大統領に解散を提案していた。

主要政党は総選挙に向け、有権者に訴える政策の中身を詰める。ドイツ経済は23年から2年連続でマイナス成長に陥る可能性が高く、構造改革や競争力の底上げが急務だ。ウクライナへの軍事支援やトランプ次期米政権との貿易交渉など外交・安全保障のかじ取りも論点になる。

ショルツ氏が所属するドイツ社会民主党 (SPD) は財政拡張寄りの経済政策を前面に打ち出す。国政最大野党で保守陣営のキリスト教民主・社会同盟 (CDU・CSU) はメルケル前政権以来となる4年ぶりの与党復活へ減税を柱に据える。

反移民感情は選挙戦の行方を左右する。今回のようなマグデブルグで起きた暴走殺傷事件は極右政党に有利に働く。

事件の動機は不明な点がなお多いものの、捜査当局は同胞の難民に対するドイツの対応に不満を抱いていた恐れを指摘した。民間人を狙った無差別襲撃の可能性があり、ドイツ社会に動揺が広がった。

独調査会社の実施した世論分析によると、ドイツで重視される問題は経済状況との回答が34%で首位だ。次いで移民・難民対策が23%と続き、年金の9%やロシアによるウクライナ侵略の8%より関心が格段に高い。

今回の事件にいち早く反応したのが極右ポピュリズム政党の“ドイツのための選択肢（AfD）だ。ワイデル党首は”無秩序な移民の受け入れが無ければマクデブルグの事件は起きなかった“と訴え選挙戦に最大限に活用しようとしている。事件後の23日には現地で演説集会を開いた。

独メディアによると、AfDは選挙戦で国境管理の徹底と難民支援の削減を掲げる。EUと単一通貨ユーロからの離脱に加え、原子力発電への回帰も訴える。移民管理を巡ってはCDU/CSUの不法移民の流入阻止を表明する。AfDはウクライナ侵攻を続けるロシアへの経済制裁を解除し、ドイツと結ぶガスパイプライン“ノルドストリーム”を通じた安価なガス調達の再開も呼び掛ける。



ドイツ極右「反移民」訴え 来年2月総選挙 与党は苦戦確実 暴走 ...

政党別の支持率は CDU/CSU が33%と首位で、AfD は19%で2番手として追いかける。原発への回帰やガスパイプラインの再開など、AfDが掲げる主張は実現性が低いものの一見するとドイツ経済が抱える問題の解決策と映りやすい。果たして他の政党はAfDの主張に対し、説得力のある反論ができるであろうか。

支持率で首位を走る保守陣営のキト教民主・社会同盟（CDU/CSU）が4

年ぶりに与党に復帰する可能性が高いが、果たして大胆な政策決断ができるであろうか。次期政権のやるべきことははっきりしている。外交・安全保障で対ロシア・中国への強硬策を貫き、経済面ではドイツの景気を回復させることだ。しかしこれは容易なことではない。



ドイツ野党 CDU のメルツ党首

メルケル政権は強権国家に経済優先で融和的な姿勢で臨みインフラ投資を怠って産業競争力を弱めた副作用を払拭するといったことをしなければならない。

ドイツ野党メルツ氏、トランプ氏との取引に前向き - 総選挙前倒し ...

ただ CDU/CSU の支持率は歴史的に見れば高い水準とはいえず単独過半数は遠い。連立相手を探さざるを得ず、早くもシュルツ首相の出身母体である SPD と組むとの下馬評がひろがる。そうなれば政策の大転換は難しい。

ドイツが総選挙とそれを受けた連立協議は、トランプ政権の正式な発足と重なる。トランプが同盟国軽視などに走りそうな場合、歯止めをかける大事な最初の数か月、ドイツが国際舞台から脱落するおそれがある。代役はだれになるであろうか。イタリーのメローニ首相がトランプと欧州の架け橋になると意気込んでいるが



イタリアのメローニ首相 トランプ氏の邸宅を訪問 | khb東日本放送

本来ならフランスのマクロンがドイツの代役を務めるべきだが、内政が迷走している。

ロシアの侵略を受けるウクライナに米国が冷淡な対応に転じた時、欧州はロシアとどう向き合うのか。政治空白の危機感 は 欧州全体に広がる。

ウクライナが独仏を含めた欧州にいやが応でも政治決断を迫るかもしれない。

トランプが意欲を見せているウクライナ停戦がたとえ実現してもロシア有利な内容になるはずで、それに対し欧州は、何も手を打たず高みの見物をするのか、あるいはウクライナに派兵をするなど踏み込むのか、今のところ予測がつかない。